

国保料の軽減について



一般質問する松浦議員

昨年5月に「持続可能な医療保険制度改革を構築するための国民健康保険法等の一部を改正する法」が成立しました。

この法律は、2018年度から保険者が都道府県と市町村になります。1961年度にスタートした現在の制度は、55年の歴史の中で大きな転換期を迎えます。

この状況を踏まえながら松浦議員は、昨年も低所得世帯に軽減しているが、5割軽減、2割軽減の拡大による効果について質問。鈴木市民部長は、「5割軽減で17世帯、2割軽減で14世帯が増加する」と答えました。次に、基礎賦課限度額、後期高齢者支援金賦課限度額が、それぞれ2万円引き上げられた。昨年は医療分の料率などの引き下げが行われたが、今年は据え置きと

なっているが、その理由について質問。市民部長は、「2万円の引き上げにより、保険料として医療分、後期高齢者支援分で各860万円、合計1720万円の増と試算している。平成28年度の保険料としては、1720万円と基金積立金を活用して料率等を据え置くことにした」と答えました。

松浦議員は、国保条例の一部改正について「基礎賦課限度額については、一部問題はあるが、今回の改正により低所得、中間所得層の保険料が僅かではあるが軽減につながる」と述べています。

共産党議席倍増！

野党と市民の共闘

32選挙区中

11選挙区で勝利！

野党共闘と共産党の躍進をめざして奮闘した参議院選挙が終わりました。

「今度は共産党のびるよ」「野党共闘と市民が手をつなぐのは良いことだと思おうよ」「野党共闘はうまくいくのか？」など市民のみなさんからも歓迎



と疑問の声が聞こえる選挙戦となりました。残念ながら「森つねと」さんを当選させることができませんでした。ほかに比例候補28人の名前が書かれているなど、全国からの紹介と思われる貴重な1票がありました。

読者・支持者・後援会のみなさん！ご支援本当にありがとうございました。

今後は平和憲法（9条）改悪を狙う勢力との激しい闘いが続くと思えますが、共産党の地力をつけ、みなさんといっしょに力を合わせ奮闘したいと思います。今後とも宜しくお願い致します。

松浦奮戦メモ

参議院選挙が終わり、後援会員や支持者のみなさんに選挙が終わるまで、敷地にポスターを貼る掲示板的設置をお願いしていたところに、12・13日、お礼を言いながら掲示板的の撤去作業を行いました。また、ポスターの貼り替えもやりました。

お会いできたところでは、みなさん「選挙ご苦労さまでしたと、労をねぎらっていただきました。同時に、もう少し伸びる

日本共産党の得票・得票率

全国	投票率
比例	今回 6,016,195票 10.7%
	13年 5,154,055票 9.7%
選挙区	今回 4,103,514票 7.3% 54.70%
	13年 5,645,937票 10.6% 52.61%
網走市	投票率
比例	今回 1,846票 10.91%
	13年 1,670票 9.87%
選挙区	今回 1,626票 9.52% 56.15%
	13年 1,763票 10.12% 54.07%

と思ったけれど残念、でも倍になったんだよね」など、激励の声が寄せられました。多くの支持者のみなさんは、それだけ日本共産党の躍進に期待していたのだと感じました。その意味では、期待に届かないことができず、悔しい思いもあります。

今後は、2年半以内に衆議院選、3年後はいっせいで地方選挙、そして参議院選挙と選挙が続くこととなります。

網走の党を大きくして、新しい市議候補を早く決めて、戦いの準備をしなければならぬと思っっています。

流水

主要国首脳会議（伊勢志摩サミット）が異常な警戒の中で行われたのはつい2カ月前のこと。サミットの舞台が有名な観光地なので経済効果も期待して地元民は特産品や見所の紹介を力を入れて宣伝した。しかし、事前の仰々しさに反しアツという間に会議は終わり、地元経済はどれほど潤ったかは報道もされず結局、議長国の首相、安倍晋三氏の満面の笑顔だけがテレビに映し出されただけだった。

▼もう一つ話題になったのは現職の米大統領オバマ氏がヒロシマを訪問したことだった。オバマ氏は「世界中の原爆をなくすよう努力する」そんな演説をし、被爆者代表の老人の肩をやさしく抱き哀悼の意を伝えているようだった。ところがその前日、米海兵隊と海上自衛隊が共同使用する岩国基地を訪れ、3300人の隊員を前に訓示をしたことはあまり知られていない。その後広島島に向かったがその際、俗称「核のフットボール」＝黒皮に包まれた重さ約20キロのアタッシュケースでその中には米軍に核兵器使用を許可する場合に大統領本人だと認識できる「ピスキット」と呼ばれる特別なカードキーを常時携帯しヒロシマでも核攻撃の手立ては離さなかった（H新聞より）▼「米海兵隊と自衛隊が力を合わせ平和の維持、友好国との連携などの協力関係を誇りにしている」と結んだ。巧みな言葉、その裏で米国の盾になって戦場へ。私たちの不安は尽きない。（U）